

# Asia Indicators

発表日: 2024年3月15日(金)

インドは食料インフレに直面する展開が続く(Asia Weekly(3/8~3/15))

~台湾の輸出は半導体など電子部品関連の堅調さがけん引する展開が続く~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/8(金)	(台湾)2月輸出(前年比)	+1.3%	+1.1%	+18.1%
	2月輸入(前年比)	▲17.8%	▲2.5%	+19.0%
3/9(土)	(中国)2月消費者物価(前年比)	+0.7%	+0.3%	▲%
	2月生産者物価(前年比)	▲2.7%	▲2.5%	▲%
3/12(火)	(フィリピン)1月輸出(前年比)	+9.1%	--	▲0.5%
	1月輸入(前年比)	▲7.6%	--	▲3.5%
	(マレーシア)1月鉱工業生産(前年比)	+4.3%	+2.0%	▲0.0%
	(インド)1月鉱工業生産(前年比)	+3.8%	+4.1%	+4.3%
	2月消費者物価(前年比)	+5.09%	+5.02%	+5.10%
3/13(水)	(韓国)2月失業率(季調済)	2.6%	--	3.0%
3/15(金)	(インドネシア)2月輸出(前年比)	▲9.84%	▲6.50%	▲8.20%
	2月輸入(前年比)	+15.84%	+9.30%	+0.28%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

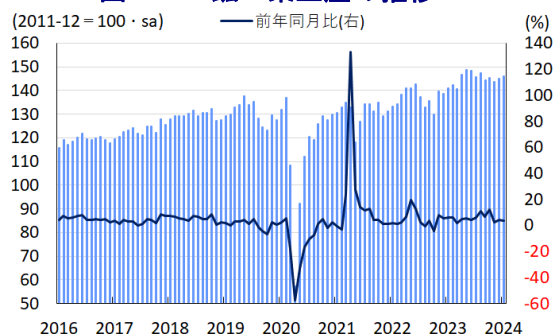
## [インド]~総選挙を前に穀物や生鮮品を中心とする食料品価格の上昇がインフレ圧力を招く展開が続く~

12日に発表された1月の鉱工業生産は前年同月比+3.8%となり、前月(同+4.3%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。頭打ちの動きが続いた鉱業部門の生産に底打ち感が出ているほか、製造業関連の生産も底入れしている上、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も底打ちするなど、全般的に生産活動が底打ちの様相をみせているとみられる。耐久消費財を中心とする消費財関連の生産に底入れの動きを強めているほか、こうした動きを反映して中間財関連の生産も同様に底入れするとともに、資本財関連の生産にも底打ち感が出ている。ただし、非耐久消費財の生産拡大の動きに一服感が出るなど、足下の生産活動はまちまちの動きをみせている。

また、同日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+5.09%となり、前月(同+5.10%)からわずかに伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.16%と前月(同▲0.11%)から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇の動きに一服感が出る動きがみられるものの、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格は3ヶ月ぶりの上昇に転じており、食料インフレの動きが影響していると捉えられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.81%と前月(同+3.05%)か

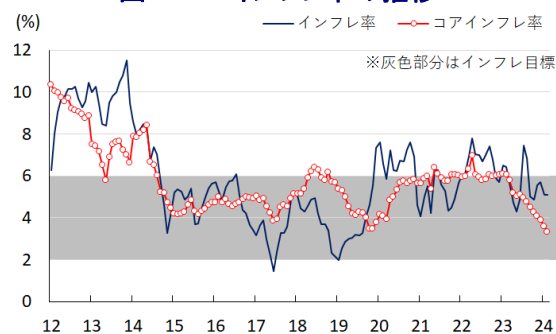
ら一段と鈍化しており、中銀（インド準備銀行）が定めるインフレ目標（ $4 \pm 2\%$ ）の中央値を下回る推移が続いている。ただし、前月比は $+0.20\%$ と前月（同 $+0.27\%$ ）からわずかにペースは鈍化するも5ヶ月連続で上昇しており、エネルギー価格の上昇一服により輸送コストの上昇ペースが鈍化していることに加え、国際金融市場におけるルピー安一服による輸入インフレ圧力の後退を反映して財価格の上昇ペースは鈍化している一方、サービス物価は上昇基調が続くなどインフレ圧力がくすぶる展開をみせている。

図1 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季節調整値は当社試算

図2 IN インフレ率の推移

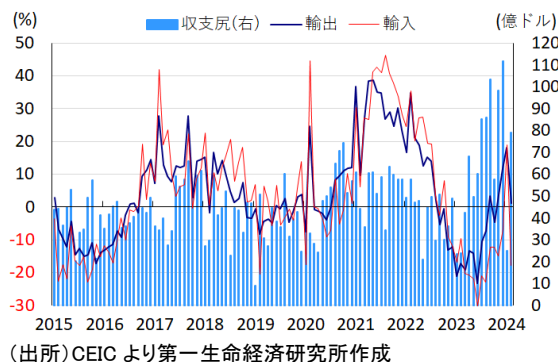


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～半導体をはじめとする電子部品関連の堅調さが輸出全体を押し上げる展開が続いている模様～

8日に発表された2月の輸出額は前年同月比 $+1.3\%$ となり、前月（同 $+18.1\%$ ）から伸びが鈍化している。なお、今年は春節（旧正月）連休の時期が前年から大きく後ろ倒しされており、その影響で前年比の伸びが大きく下振れしたことに留意する必要がある。事実、前月比は $+1.0\%$ と前月（同 $\blacktriangle 7.5\%$ ）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きがうかがえる。国・地域別では、日本向けや欧州向けなどは力強さを欠く推移をみせる一方、最大の輸出相手である中国本土向けに底堅い動きがみられるほか、ASEANなどアジア新興国向けも堅調に推移するとともに、米国向けの旺盛さが輸出全体を押し上げる展開が続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の堅調さが輸出全体を下支えする動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比 $\blacktriangle 17.8\%$ となり、前月（同 $+19.0\%$ ）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も $\blacktriangle 15.2\%$ と前月（同 $+17.9\%$ ）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も拡大ペースで推移するも伸びが大きく鈍化するなど頭打ちの動きを強めている。原油をはじめとする商品市況の底入れの動きを反映して鉱物資源関連の輸入に底堅い動きがみられる一方、機械製品関連のほか、化学製品関連などの素材・部材関連の輸入が下振れしていることが輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は $+78.88$ 億ドルと前月（ $+24.94$ 億ドル）から黒字幅が拡大している。

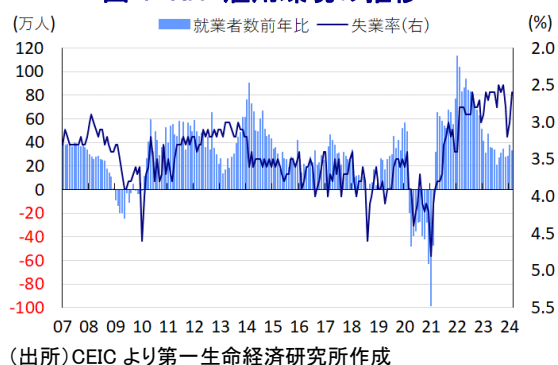
図3 TW 貿易動向の推移



### [韓国]～失業率は3ヶ月ぶりに2%台に改善も、若年層や高齢層で雇用を取り巻く環境は大きく異なる様相～

13日に発表された2月の失業率(季調済)は2.6%となり、前月(3.0%)から0.4pt改善して3ヶ月ぶりの2%台となっている。失業者数は前月比▲11.5万人と前月(同▲4.1万人)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる。年代別では、20代といった若年層で減少に転じる動きがみられる一方、50代や60代以上といった高齢層を中心に失業者数の減少が進んでいる状況が続いている。一方の雇用者数は前月比+11.3万人と3ヶ月連続で拡大するとともに、前月(同+8.2万人)からペースが加速するなど底入れの動きを強めている。ただし、年代別では、30代や50代で拡大する動きがみられるものの、これまで堅調な推移をみせてきた60代以上で減少に転じているほか、10代や20代など若年層や40代など幅広い年代で減少する動きが確認されている。雇用形態別でも正規雇用に底堅い動きがみられる一方、非正規雇用を中心に調整の動きが強まるなど対照的な状況が続いている。労働力人口は前月比▲0.0万人と前月(同+0.4万人)から6ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに変化の兆しが出ているほか、年代別では若年層や高齢層で減少の動きが確認されるなどこうした層で労働市場からの退出の動きが強まっている様子がうかがえる。労働参加率は64.7%と3ヶ月連続の横這いで推移しているものの、若年層や高齢層で低下する動きが確認されるなど、年代ごとに雇用を取り巻く環境が異なっていると捉えられる。

図4 KR 雇用環境の推移

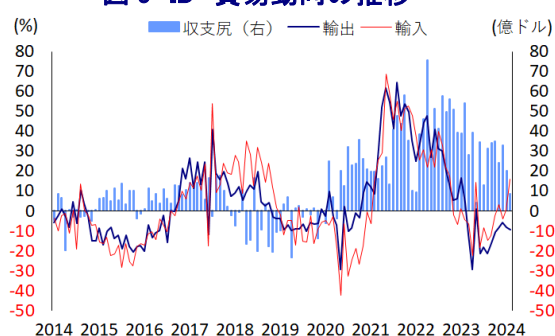


### [インドネシア]～世界経済の減速が輸出の重石となる一方、商品市況の底入れの動きが輸入を押し上げる～

15日に発表された2月の輸出額は▲9.45%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲8.20%)からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ

月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、農産品関連の輸出に堅調な動きがみられるほか、鉱物資源関連の輸出にも底堅さがうかがえるものの、原油や天然ガス関連の輸出は下振れしているほか、製造業関連の輸出も頭打ちの動きを強める動きがみられるなど、世界経済の減速懸念の高まりが重石になっている。一方の輸入額は前年同月比+15.84%となり、前月（同+0.28%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と対照的に底入れの動きを強めている。財別では、機械製品関連の輸入は頭打ちの動きを強めている一方、原油や石油製品関連のほか、穀物をはじめとする食料品などの輸入が堅調に推移していることが輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は+8.67億ドルと前月（+20.00億ドル）から黒字幅が縮小している。

図5 ID 貿易動向の推移

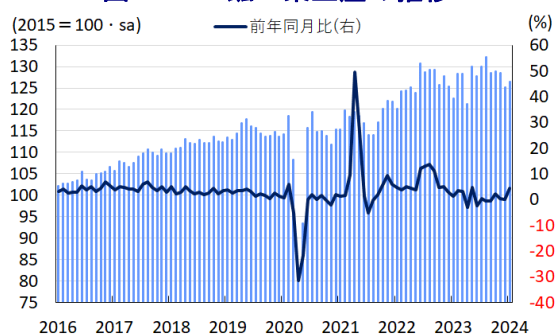


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～鉱業部門の生産は底入れの動きを強めるも、輸出財を中心とする製造業の生産は力強さを欠く～

12日に発表された1月の鉱工業生産は前年同月比+4.3%となり、前月（同▲0.0%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+1.06%と前月（同▲2.60%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。天然ガスを中心とする鉱物資源関連の生産は底入れの動きを強める一方、輸送用機械関連や金属加工関連などの製造業の生産に底打ちの兆しがうかがえるものの、主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連の生産は力強さを欠く推移が続いており、生産全体の重石になっている。経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く動きが続いており、足下の景気の弱さを示唆していると捉えられる。

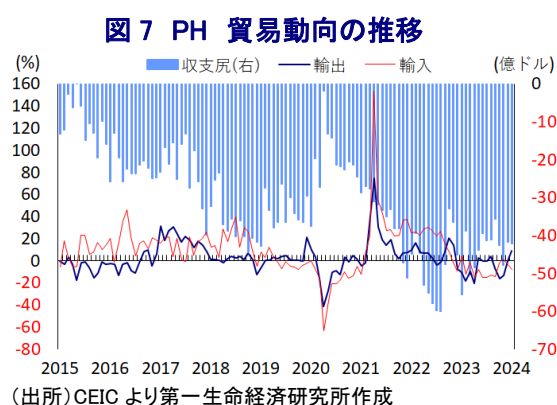
図6 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

## [フィリピン]～主力の輸出財である電子部品関連をけん引役に輸出は底入れの動きを強める展開が続く～

12日に発表された1月の輸出額は前年同月比+9.1%となり、前月（同▲0.5%）から5ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も5ヶ月ぶりの拡大に転じる動きがみられるほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出に底打ちの動きがでていることが輸出全体を押し上げている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けは力強さを欠く推移が続いているものの、日本向けやASEAN、韓国、台湾などアジア向けを中心に堅調な動きがみられるほか、欧州や米国向けの底堅さも輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比▲7.6%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲3.5%）からマイナス幅は拡大している。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。財別では、電気機械関連などに底打ちする動きがみられるものの、鉱物資源関連のほか、食料品をはじめとする消費財関連の輸入が下振れしていることが重石となっている。結果、貿易収支は▲42.21億ドルと前月（▲41.28億ドル）から赤字幅がわずかに拡大している。



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。